

安息

創世記2:2~3

第七の日に、神は御自分の仕事を完成され、第七の日に、神は御自分の仕事を離れ、**安息**なさった。

この日に神はすべての**創造の仕事を**離れ、**安息**なさったので、第七の日を神は祝福し、聖別された。

創世記2章で言わわれている「仕事（わざ）」は、神の本質的な奉仕や支えの働きまでを含むものではありません。安息（安息日）の取り扱い（過ごし方）について、誤解をしている方が結構、いらっしゃいますので、改めて、聖書から学んでみたいと思います。

1. 創世記2章の「仕事（わざ）」とは

הַמְלָאָקָה m'lā'kâh, mel-aw-kaw' メラカー; ministry; generally, employment (never servile) or work (abstractly or concretely); also property (as the result of labor):—business, cattle, industrious, occupation, (-pied), officer, thing (made), use, (manner of) work((-man), -manship). 奉仕; 一般的には、雇用（決して奴隸的ではない）または仕事（抽象的または具体的に）；また、財産（労働の結果として）：ビジネス、家畜、勤勉な、職業、(-pied)、役員、物（作られた）、使用、仕事((-man)、-manship)。

ここで使わわれている「仕事（わざ、業）」（ヘブライ語：הַמְלָאָקָה メラカー）は、創造という完成させる作業、世界を無から秩序あるものへ形づくる神の業を指します。つまり、創造を完成させるための働きが終わった、という意味です。

2. 神は第七日に「安息なさり、何もなされなかった」のか？

答えはNOです。聖書全体を見ると、神は第七日以降も、被造物を保ち、命を支え、摂理をもって治め続けておられると明確に教えてています。

イエスの次の言葉が決定的です。イエスはお答えになった。「**わたしの父は今もなお働いておられる。だから、わたしも働くのだ**」（ヨハネによる福音書5:17）。KJB（欽定訳聖書）では、**But Jesus answered them, My Father worketh hitherto, and I work.** と記されています。「worketh hitherto」は「今に至るまで／今もなお働いておられる」という継続的な意味です。

文脈上、安息日における神の働きと、御子イエスの働きの正当性を示す発言です。

これは、**安息日であっても、神の働き（奉仕・救済・維持の働き等）は何も止まっていない**ことを記しています（→マタイ12:1、11、マルコ2:23、ルカ6:1、9、ヨハネ9:14他）。

3. 奉仕の働きは「安息日違反」ではない

安息日に神殿にいる祭司は、安息日の掟を破っているのではなく、罪にもならない、と律法にあるのを読んだことがないのか（マタイによる福音書12:5）。この聖句から、神殿での**祭司の奉仕は安息日でも行われていました**。また、病人を癒すことは安息日にも許されました。むしろ、これは神の御心なのです。「人間は羊よりもはるかに大切なものです。だから、**安息日に善いことをするのを許されている**」（マタイによる福音書12:12）。

つまり、**命を生かし、神の目的にかなう奉仕は「仕事」ではなく、安息の本質に属する行為なのです。**

4. 神の安息の本質とは？

神の安息は、“疲れたから休む”、という意味ではなく、聖句（→創世記2:2~3）にもあるように、完成した創造を喜び、秩序が確立された状態に入られたということです。創造以来備えられた安息は、ヨシュアの時代を超えて「今日」も招かれています。ゆえに信じる者は自分の業を終えて神の安息に入るよう努め、心をかたくなにせず、すべてを見抜く生ける神の言葉の前に歩むべきである、と記しています。そして、ヘブライ4:1~13では、“神の安息とは、神の完成した御業にあずかる状態”（→「神の安息」とは、私たちが自分の努力や働きで何かを完成させようとするのをやめ、すでに神が成し遂げてくださった完全な御業—創造と救い—を信頼して、その中に身をゆだねて生きる状態）だとも記しています。